

## 第一次産業の多面的機能

農林水産委員会 専門員

すずき あさお  
鈴木 朝雄

近年、農林水産業の現状やその果たしている役割を説明する際、「多面的機能」という言葉がよく使われる。この言葉は、第一次産業にかかわる者にとっては、なじみのある概念であるが抽象的な表現なので、一般にはどの程度理解されているであろうか。

農林水産業の多面的機能とは、通常、農・林・水の各産業が本来果たすべき食料や木材等の安定的供給以外に、その生産過程において副次的に生じているプラスの外部経済効果を指すことが一般的である（10年ほど前までは、同じことを「公益的機能」とも表現）。その効果については、副次的なものであるがゆえに、市場を通して貨幣価値等で定量的に評価されることは通常行われてこなかった。しかし、人々が意識するかしないかにかかわらず、農林水産業が継続的に営まれている社会にあつては、その恩恵を何らかの形で享受してきたことも事実である。特に、一定規模の農山漁村集落を形成して一次産業が営まれている我が国のような社会においては、集落の機能とあいまって多面的機能が発揮されることが多いことも忘れてはならないことであろう。

具体的な農林水産業の多面的機能の一部を挙げれば、洪水・土砂崩壊・土壌流出の防止、地下水涵養、自然環境保全、農山漁村の景観保全、行楽・保養の場、国境・海域環境の監視、海難救助、地域社会・伝統文化の維持、体験学習・教育の場等である。これらの機能のいくつかについては、都市部のみで生活する人々も、その恩恵を日常的に受けていると実感できるものがあるのではなかろうか。

第一次産業は、一義的に自然環境に対する人間の直接的な働きかけが生産活動の基本であるため、自然との関係性が深く、長期間にわたる継続的な生産活動は、二次的な自然生態系を形成するまでになる。また、農林水産業は、日常生活と生産活動の場が同じであることが多いため、文化や伝統の形成に大きな影響を与えやすい。こうしたことから、主目的である農林水産物の生産過程において、副次的な外部経済効果を発揮しやすい産業であることは確かであるが、農林水産業に従事してきた人々は、多面的な機能をも果たそうと意識して、食料等の生産活動を行ってきたわけではない。そのためあつて、製品の生産体制が順調に機能している間は、多面的機能について創出する側も享受する側も意識することは少なかったといえよう。

しかし、近年の我が国の農林水産業は、就業人口の大幅な減少やその高齢化の進展、農山漁村の過疎化、農地や水産資源の減少等により、確実に脆弱化している。この趨勢が続けば、本来の役割はもとより、多面的機能の発揮も危うくなる。農林水産業の盛衰は、単に食料等の安定供給に関することだけではなく、国民の日常生活全体に大きな影響を及ぼすものであることを、その多面的機能を通して理解して欲しいものである。